

# KU-STEAM

## 第2号

### 2023年3月

## 学びのコミュニティ



### Contents

- 2 巻頭言
- 7 令和4年度第2回全学FD研修会
- 7 教学マネジメントセミナー 2022
- 5 融合先導知実践演習B (アイデアキャンプ)
- 8 KU-STEAMガクセイ社会科見学 (バスツアー)、学生スタッフ募集, 編集後記
- 4 【特集】探究・STEAMフェスタ2022

## KU-STEMガクセイ社会科見学 (バスツアー) レポート

ガクセイ社会科見学は、地域の特色を活かした体験や人との交流を通じて、学生の多面的思考力を高め、新しい解決策やイノベーションを生み出す一歩となることを目的に2回開催しました。融合学域・人間社会学域・理工学域・医薬保健学域の4学域学生のほか、大学院生や留学生を交えて累計40名を超えるエントリーがありました。ガクセイ社会科見学開催の案内チラシ、開催レポート記事そして、ツアーの紹介動画は、参加学生やKU-STEAM学生スタッフが作成しました。

第1回 令和4年6月15日(水) 12:35~16:50

- 訪問場所：  
箔一本店箔巧館 (はくこうかん)、  
箔一 安原第五工場
- 対象定員：  
金沢大学の学生  
20名

開催記事：<https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/news/activity/457/>  
 開催動画：<https://youtu.be/tVVBZglPz-c>



金箔メーカーの箔一本店および工場にて開催されたガクセイ社会科見学



箔一の商品を見学している学生ら

第2回 令和4年11月11日(金) 12:35~16:15

- 訪問場所：  
森八 専光寺工場直売店
- 対象定員：  
金沢大学の学生  
20名

開催記事：<https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/news/activity/1074/>  
 開催動画：<https://youtu.be/NFY2f2twFXw>



加賀藩御用菓子司 森八の工場前にて集合写真



専光寺工場直売店を見学

## KU-STEAM学生スタッフ募集!

### KU-STEAMとは?

金沢大学の学域・学類を超えて、多様な専門知の融合により課題解決力を鍛える分野横断型の先導STEAM人材を育成するプログラムです。



STEAMとは、Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学・ものづくり)、Art (芸術・リベラルアーツ)、Mathematics (数学) の5つの単語の頭文字を組み合わせた教育概念のことで、技術革新が進み人工知能の影響で世の中が大きく変化する中で生まれました。

### ■活動内容-予定-

- ・学生同士で学び合うピア・サポート
- ・学生向け説明会等でのプレゼンテーション
- ・共創型ワークショップや実践インターンシップの企画づくり
- ・STEAMラボでのデザイン創作 (動画編集、ニュースレター作成)

### こんな人におすすめ!

- ・動画編集など新しい挑戦や実績をつくりたい人
- ・他学域・学類の学生と交流し、活動してみたい人
- ・後輩学生たちの学びのサポートに関心がある人

これから新しく始まる取り組みです。まずは気軽におしゃべりしませんか? (担当者より)

KU-STEAM学生スタッフとして参加したい方、関心のある方は、お気軽に下記担当までご連絡ください。  
 担当：金沢大学 教学マネジメントセンター 山下貴弘・林透  
 メールアドレス：ku-steam@ml.kanazawa-u.ac.jp  
 (場所：角間キャンパス・インキュベーション施設3階「STEAMラボ」)

## Editorial note

### 編集後記

教学マネジメントセンターでは、角間キャンパス・インキュベーション施設3階に「STEAMラボ」を設置し、文系・理系を問わず、多様な学類の学生が集い、各種企画やデザイン創作のためのスペースを用意しています。これまでチラシのデザイン、イラストの執筆、動画撮影・編集など、経験の有無にかかわらず、初心者からプロまで現在20名を超える学生スタッフが幅広く活躍中!

また、担当教員によるアカデミック・アドバイジングに加えて、学生同士の学び合いを大切に、学年と学域・学類を超えた学び合い(ピア・サポート)の整備にも取り組んでいます。

このような活動に関わってくれるKU-STEAM学生スタッフを募集しています。ご関心のある方は、どうぞ、募集案内チラシの問合せ先までご連絡ください!

学生スタッフ紹介ページはこちら



# 巻頭言



金沢大学長  
和田 隆志

私たちは今、コロナ禍以降のニューノーマルと、国際秩序の変容という「時代の大きな転換点」に直面しています。同時に、DX（デジタルトランスフォーメーション）の活用によって描き出す「未来世界への出発点」に立っています。

本学は、文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」の採択をうけ、令和2年度から「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」に取り組んできました。このプログラムは、かつてない変化に直面する社会に対応するための教育改革です。深い専門性を基盤としながら、広範な教養と文理融合の知識をもって新たな世界の価値創造に挑む、領域横断型のSTEAM人材の育成を柱としています。

本プログラムではこれまで、金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）を体現するレベルアップ教育を大幅に拡充してきました。また文理融合の「総合知」により現代の課題解決を先導する新学域「融合学域」を設置する等、大胆な教育改革を進めてまいりました。今後は、この融合学域を中心に展開する未来志向型教育をすべての学域に浸透するべく「先導STEAM人材育成プログラム」の拡充に注力します。総合大学が誇る多分野の専門性に、広範な教養と文理融合の知識を組合せ、次なる時代を描き出す知性、すなわち「未来知」をもったSTEAM人材を、全学体制で育てていきます。

また、本学は「知識集約型社会を支える人材育成事業」の幹事校に選定されています。他の採択校と連携を図り、各大学が集約し磨き上げた多彩な「知」を、全国の高等教育機関に波及させます。この「時代の大きな転換点」から、持続可能な、希望ある未来社会を創成するべく、着実に歩を進めてまいります。

関係の皆様におかれましては、本学の取り組みに今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## KU-STEAMランチョンセミナー

教学マネジメントセンターでは、大学が持つ様々な教育資源をとりまとめ、幅広い教養を身に着ける機会に加えて、学生一人ひとりの可能性を組み合わせ、既存の枠組みを超えて新たな価値を生み出す学びの土壌をつくるため「KU-STEAMランチョンセミナー」を開催しました。参加人数は累計426名で、学生369名のほか教職員等57名の参加がありました。

ランチョンセミナーでは十分な感染対策のもと、ランチを食べながらゲストを招いて気軽に話を聞くことができる昼休み限定のセミナーです。

令和4年度は合計14回開催し、ゲストには学内外から累計21名（うち学内者18名／学外者3名）にご登壇いただき、KU-STEAMの履修体験談、融合学域の学び、能登・地域活性化演習I・IIの魅力といったKU-STEAMのプログラムに関することをはじめ、プログラミング、ロボット、教育、映像編集など文理融合・分野横断に取り組むテーマを取り上げました。また、参加者アンケートをもとに、ライティング支援、地域とSDGs、公認サークル、学生のまち、グローバル化に関する話題等、多様な発表が行われました。

各ゲストの発表後には、教学マネジメントセンターの山下 貴弘 特任助教が、それら多様な学びに接続する「先導STEAM人材育成プログラム（KU-STEAM）」のカリキュラムや履修方法等のガイダンスを行い、プログラムの魅力を発信しています。

### 参加者の声

- 分野の枠組みに捉われず、様々なことを色々な面から勉強してみたいです
- 面白そうな集中講義の情報が得られました
- もう何回も来ていますが、毎回視野が広がります
- 友達に誘われて来てみましたが、思ったより興味深い内容でやってみたくと思いました
- 先輩方のお話がとても興味深く、ランチョンセミナーに参加して良かったと思います

令和4年度は  
ランチョンセミナー 合計 **14回** 開催!  
参加人数 累計 **426名**  
学生 **369名** のほか教職員等 **57名** が参加



ゲストスピーカーとして登壇する学生



ランチョンセミナーの教室の様子

## 先導STEAM人材育成プログラム (KU-STEAM)

### 融合先導知実践演習B (アイデアキャンプ) 開講!

#### トピック (出展団体からの課題テーマ)

- (1) 株式会社箔一  
「金箔メーカーにおける、ものづくりを知ってもらうための方法は?」
- (2) 株式会社小林製作所  
「板金を使った新規プロダクトを企画しよう!」
- (3) 能登町役場・能登高校魅力化プロジェクト  
「過疎化・少子化で入試倍率1倍を下回る地元県立高校を地域に欠くことのできない教育機関として今後も存続/発展させるには?」
- (4) 加賀商工会議所  
「マスクあり婚活イベントにおいて、より仲が深まるコミュニケーションとは?」

全学域の学生を対象とした「先導STEAM人材育成プログラム (KU-STEAM)」の発展科目 (200番科目) として、令和4年度に開発した「融合先導知実践演習B (アイデアキャンプ)」(Q3・集中講義) を開講しました。1年次から4年次までの多様な学域・学類の学生20名と企業・自治体等、運営スタッフを含め合計34名が参加しました。

この授業は今年度新たに開講した科目で、学域・学類、学年等文理や立場を超えた学生が、企業・自治体等の方とともに、実社会のリアルな課題に対して、解決策を検討する方法を体験的に学びながら、融合した専門知と鋭敏な飛躍知を備えた「融合先導知\*」の意義や価値を理解することを目指します。

1日目は、課題解決法を修得するためのグループワークを行いました。授業アドバイザーとして東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構 [科学技術インテグリエーター養成部門] の定松 淳 特任准教授をお招きして、統計・分析の観点からアイデア出しの学修サポートをしていただきました。金沢大学の総合教育部、KUGS特別入試の設置準備より携わり、材料工学、教育学を専門とする高大接続コア・センターの中野 正俊 特任助教から、探究的な学びの課題設定についてご指導いただきました。

続いて、2日目と3日目は主に教学マネジメントセンターの林 透 教授と山下 貴弘 特任助教による進行で、実際に企業・自治体等の方から現状や課題を発表していただき、その解決法について企業・自治体等の方と一緒に考え、提案するグループワークを行いました。

出展団体と出展団体から提示された課題に対する、各グループの提案は以下のとおりです。

- (1) 株式会社箔一「金箔のイメージを「高価」から「大切」へ」



グループごとに学域や学年のほか学生と社会人がともに意見を出し合って検討



成果発表の様子



グループワークを通して学生・社会人に一体感が生まれた

### 参加団体社会人の声

- 面白い学生が多く、また先生方のファシリテートと講義が非常に面白かったです
- 職場での起案にも活かせるプロセスを学べました
- 学生が自分ごととして我々が提示した問題・課題について検討してくれました。短い期間・時間のなかで学生の成長が見て取れました
- 学生の皆さんと直接接する機会がほとんどないため、このような機会をいただけて非常にありがたいです。また、ただ接するだけでなく、企業のことについてより深く考察していくことができるため、学生の皆さんの企業理解と私たちの大学生に対する理解を互いに深めていくことができる点も非常に良いと感じます

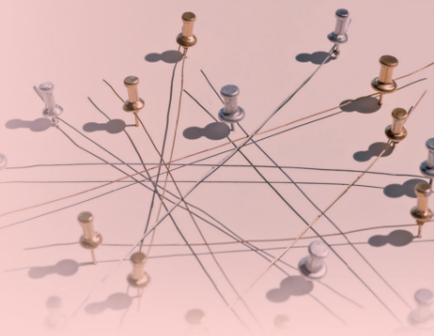


講義を行う定松特任准教授



企業・自治体等の方々から順番に現状や課題について丁寧なプレゼンテーション

# 探究・STEAM フェスタ2022開催!



教学マネジメントセンターでは、高等学校教育において必修化されている「総合的な探究の時間」をはじめとする教科横断型の探究学習を通じた高大接続・高大連携に着目し、高大接続コア・センターと連携した取組を進めています。これから探究学習が本格化、学習を本格的に開始する高校1年生を対象に、大学生・大学院生との対話を通して、自らの探究心を高めるとともに、新たな学びや将来に向けたキッカケづくりを目指しています。

- トピック
- (1) 石川県内高等学校15校から約40名の高校生が参加
  - (2) 金沢大学4学域の大学生による「歩みグラフ」のプレゼンテーション
  - (3) 高校生と大学生・大学院生による対話セッション

## 高校生の探究心に火を灯す

文理融合・分野横断のSTEAM教育推進の一環として、探究学習やSTEAM教育をキーワードに、高校生と大学生・大学院生が相互に学び合う場づくりとして、高大接続ラウンドテーブル特別企画「探究・STEAMフェスタ2022～高校生の探究心に火を灯す～」を開催し、15校から約40名の高校生のほか引率者・見学者や大学生・大学院生を含む計83名が来場しました。

森本 章治 理事（教育・高大院接続・大学院改革・情報担当）・副学長による開会挨拶からはじまり、社会人ファシリテーターである合同会社楽しい学校コンサルタント Second 代表の前田 健志氏によるアイスブレイキングを実施しました。

続いて、社会人ファシリテーターである萩市地域おこし協力隊の和泉 宏氏とKU-STEAM学生スタッフによる司会進行、ドルトン東京学園中等部・高等部の田村 早紀恵教諭らのサポートのもと、大学生・大学院生によるリアル探究トークや探究等をテーマとした対話を行いました。

全体共有では、教学マネジメントセンターの山下 貴弘 特任助教が明日に向けた誓い・宣言を行うワークを行い、今日の学びを振り返るとともに、今後に向けた探究テーマのキーワード化や共有を行いました。

さらに、高大接続コア・センターの中野 正俊 特任助教が、KUGS特別入試制度<sup>※1</sup>やGSC制度<sup>※2</sup>などの案内を行いました。

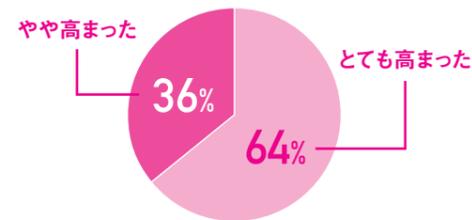
最後に、教学マネジメントセンターの林 透 教授から閉会の挨拶があり、今後の探究・STEAM教育に対する期待のメッセージが贈られました。

イベント後の情報交換会においては、引率の高校教員や保護者からも今後継続的な開催を期待する声が寄せられました。

※1：KUGS特別入試制度の詳細はこちら  
<https://kugspro.adm.kanazawa-u.ac.jp/>

※2：GSC制度の詳細はこちら  
<https://gsc.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

### アンケート結果より 「探究心は高まりましたか？」



参加者の集合写真（撮影時のみマスクを外しています）



森本理事からの開会挨拶



社会人ファシリテーターによるアイスブレイキング

## 参加者の声

### 高校生の声 Voice!

自分の未来のテーマ、これから取り組みたいことを発見し、先輩方の体験を聞いて何か行動しようという気持ちになりました

探究のテーマをみつけることができました

探究を学習する意味を知ることができました

先輩方の今までの経験からわかったこと、気づいたことなどを聞くことができ自分自身も視野が広がったり、新たな発見があったりして楽しかったです



高校生と大学生・大学院生が個別に対話を行う



今後に向けた探究のキーワードを発表する高校生

### 大学生・大学院生の声 Voice!

高校生たちは積極的に話を聞いてくれていたし、会場の雰囲気が良かったです

対話の中で深掘することを学べて自分のスキルも上がった感覚があるし、普段関わらないような方々との繋がりもできました

現役の高校生と関わることで、自分自身と照らし合わせて思いを巡らすことができ、とてもいい時間になりました

事前研修や練習する時間もおり、イベントについての理解を深めてから参加できました

話し相手が新しいチャレンジに向けて一歩踏み出す瞬間を見ることができました

探究は自発的に取り組んでこそだな、と彼らの姿を見ては思いました。自分も主体的に学んでいこうと思います

2年前まで高校生だったはずなのに高校生1年生はなんてフレッシュなんだと感じました。みんな自分の軸みたいなものをもって、話すことでお互いに自分を見つめ直すいい経験になったと思います



社会人ファシリテーターと大学生による司会進行



4名の大学生が探究をテーマにブース形式で発表

# 令和4年度第2回全学FD研修会開催!

## ピア・サポートを活用した学修者本位の教育の実現



- トピック
- (1) ピア・サポートの基礎概念やスキルトレーニング方法
  - (2) 附属図書館における学生スタッフによる学修支援
  - (3) 総合教育部におけるアカデミック・アドバイジング
  - (4) 先導STEAM人材育成プログラム (KU-STEAM) における新しい学修支援モデル

令和4年8月8日(月) 14:00~16:00にて、令和4年度第2回全学FD研修会『ピア・サポートを活用した学修者本位の教育の実現』をオンライン開催し、学内外の教職員・学生131名が参加しました。

本学は、令和2年度に文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に採択され、「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」の取組を通してSTEAM教育の全学展開を進めています。学生が文系・理系の枠を超えた学びの幅を広げるには、学生同士の学び合いによる学修支援(ピア・サポート)の仕組みが重要になってきています。併せて、『金沢大学未来ビジョン「志」』では「自ら学び・自ら育む」教育環境の整備を目指しています。本FD研修会では、ピア・サポートに関する基礎概念を学ぶとともに、本学における具体的事例を取り上げながら、今後の学修支援の充実に資することを目的に開催されました。

冒頭、森本 章治 理事(教育・高大院接続・大学院改革・情報担当)・副学長より開会挨拶がありました。その後、北陸学院大学 人間総合学部 社会学科の松下 健 准教授より「ピア・サポートの基礎概念とその効用」と題して基調講演があり、ピア・サポートの基本的枠組や具体的な活動内容、さらには、必要なスキル修得のためのトレーニング方法等について説明がありました。続けて、本学における具体的取組から、大学院自然科学研究科 電子情報科学専攻博士後期課程3年生の

田中 裕士氏より「附属図書館における学修支援スタッフ(LiLA)の経験を通して」、高大接続コア・センターの中野 正俊 特任助教より「アカデミック・アドバイジングによる学修支援の経験を通して」、教学マネジメントセンターの山下 貴弘 特任助教より「先導STEAM人材育成プログラム(KU-STEAM)で目指す学修支援モデル」と題して事例紹介がありました。

後半の意見交換では、教学マネジメントセンターの林 透 教授によるファシリテートのもと、フロアとの質疑応答、松下准教授から本学の事例紹介に対するコメントや問いかけを通して、ピア・サポートを継続的に運用する組織体制、ピア・サポートで得られたノウハウの継承、さらには、ピア・サポート活動経験の評価と学生自身のキャリアに活かせる仕掛けづくりなどが話題となりました。2時間という短い時間でしたが、コンパクトで中味の濃いFD研修会であったという声が寄せられ、大変有意義な機会となりました。



基調講演をしている松下 健  
北陸学院大学 人間総合学部 社会学科准教授

### [ 意見交換の様子 ]



山下 貴弘 特任助教    林 透 教授    松下 健 准教授    田中 裕士さん    中野 正俊 特任助教

# 教学マネジメントセミナー 2022 開催!



## 教学マネジメントのあるべき姿を考えよう! ~自律的学修者を育てるために~

- トピック
- (1) 学士課程・大学院課程を通した3つのポリシーに基づく教学マネジメント
  - (2) 教学データを活用したアセスメントプランの整備
  - (3) 自律的学修者の育成と学修方略に働きかける教育力

令和4年12月22日(木) 14:00~16:30にて、教学マネジメントセミナー 2022『教学マネジメントのあるべき姿を考えよう! ~自律的学修者を育てるために~』をオンライン開催し、学内外の教職員・学生136名が参加しました。本セミナーは、教学マネジメントに関する理解を深めることを目的に開催されました。

冒頭、森本 章治 理事(教育・高大院接続・大学院改革・情報担当)・副学長より開会挨拶・趣旨説明がありました。

まず、熊本大学 大学教育統括管理運営機構の川越 明日香 准教授より「熊本大学における3つのポリシーに基づく教学マネジメントの姿 ~学士課程・大学院課程を通した体系的な質保証の仕組み~」と題して基調講演がありました。「教学マネジメント指針」と「大学機関別認証評価」をもとに関係者による綿密な検討を通して課題を洗い出し、学士課程・大学院課程を通した3つのポリシーやカリキュラムツリー・カリキュラムマップの体系的整理の取組について具体的な説明があった後、学修成果可視化システム(ASO)の紹介がありました。

次に、金沢大学 医薬保健研究域 医学系 医学教育研究センターの太田 邦雄 准教授より「金沢大学 医薬保健学域 医学類における教学マネジメント ~国際認証を通したアセスメントプランの整備~」と題して基調講演がありました。日本医学教育評価機構(JACME)の医学教育分野別評価を受審するに際して整備した教育プログラム評価、学修成果アセスメントについて具体的なデータを用いながら詳細な説明がありました。各種アン

ケート結果等を踏まえたカリキュラムの改善事例の紹介もありました。

さらに、金沢工業大学 情報フロンティア学部 心理科学科の田中 孝治 准教授より「自律的学修者を育てるための教学マネジメント ~学修方略に働きかける教育力~」と題して基調講演がありました。教員の教え方の質向上とともに、学修者の学び方の質向上が必要不可欠であり、双方が車の両輪となって育み合う学修環境としてのラーニングコミュニティ(学修共同体)の重要性を説明されました。その上で、「学修方略=学びに向かう力」の育成に関する各種アプローチについて紹介がありました。

後半の質疑応答・意見交換では、教学マネジメントセンターの林 透 教授によるファシリテートのもと、3名の講師による基調講演に関する質疑応答のほか、参加申込時に寄せられた事前アンケート回答結果に沿って、自律的学修者を育てるために、教学マネジメントとしてあるべき姿を考えるミニワークショップを展開しました。「学内における教学マネジメントに対する理解度の低さや全学への浸透の難しさの打開」「アセスメントプランの具体的な運用の仕方」「学校教育段階から自律的学修の態度を修得する必要性」などについて意見交換がなされ、自律的学修者を育てるためには教員同士の共通理解や熱意の共有こそが大事であるという総括を行いました。教学マネジメントの原点について理解を深める貴重な機会となりました。

### [ 質疑応答・意見交換の様子 ]



林 透 教授    田中 孝治 准教授    太田 邦雄 准教授    川越 明日香 准教授